

平成 18 年 8 月 23 日

1 号機原子炉建屋における水漏れの調査結果について

東京電力株式会社
福島第二原子力発電所

当所 1 号機において、起動中の平成 18 年 7 月 23 日午前 3 時頃、原子炉隔離時冷却系*の確認運転後に現場のパトロールを行っていた当社運転員が、原子炉建屋地下 2 階の原子炉隔離時冷却系ポンプ室内のファンネル(排水口)に接続されている集合箱の開口部から水が溢れ、床に水が漏れていることを確認しました。

漏れた水は、当該系統のタービン軸封部で使用した蒸気の凝縮水等で、当該ファンネルへの排水を停止したことにより止まりました。

漏れ量は約 4.7 リットル、放射エネルギーは約 1.03×10^4 ベクレルでした。漏れた水は、拭き取りにより清掃を実施しました。

(7 月 24 日お知らせ済み)

調査の結果、建設当時に同様の水漏れが発生しており、対策として、排水ラインのファンネルの手前に弁を取り付け、当該弁の開度調節により排水量を調整する運用としていたことがわかりました。しかしながら、現場を確認した結果、排水ラインに設置されている弁が全開となっていることを確認しました。

また、当該ファンネルにおいては、排水配管内の空気の逆流を防止するために本来設置されているはずの内筒がないことを確認したことから、今回の定期検査にともなう停止期間中にこれを設置しておりました。

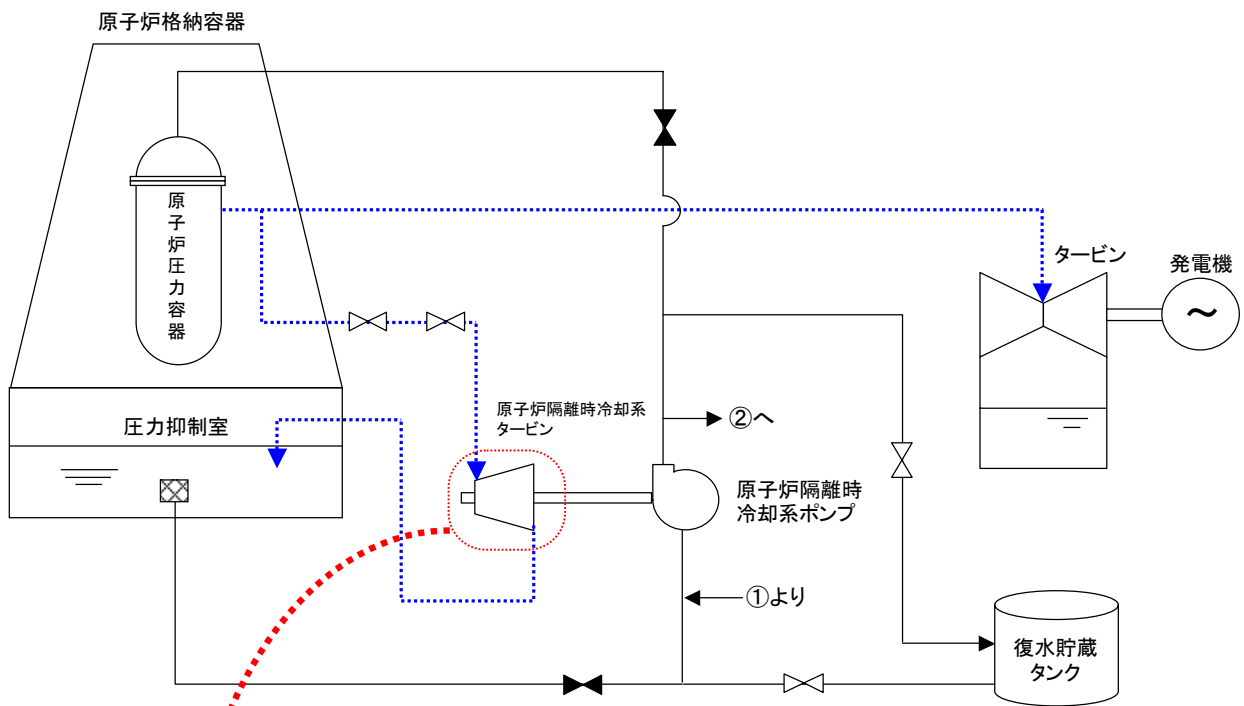
このことから、本来、当該弁は開度を調節して運用すべきところ、弁の開閉状態を確認するためのチェックリストに反映されていなかったため、全開で運用されていたことに加え、内筒を取り付けたことから、これまでより排水しづらくなり当該ファンネルが排水しきれなかったため漏れたものと推定しました。

対策として、排水ラインに設置されている当該弁および復水ポンプの出口弁の開度を調節することにより、当該ファンネルへの排水量を調整します。また、両弁の運用を当該チェックリストに明記します。

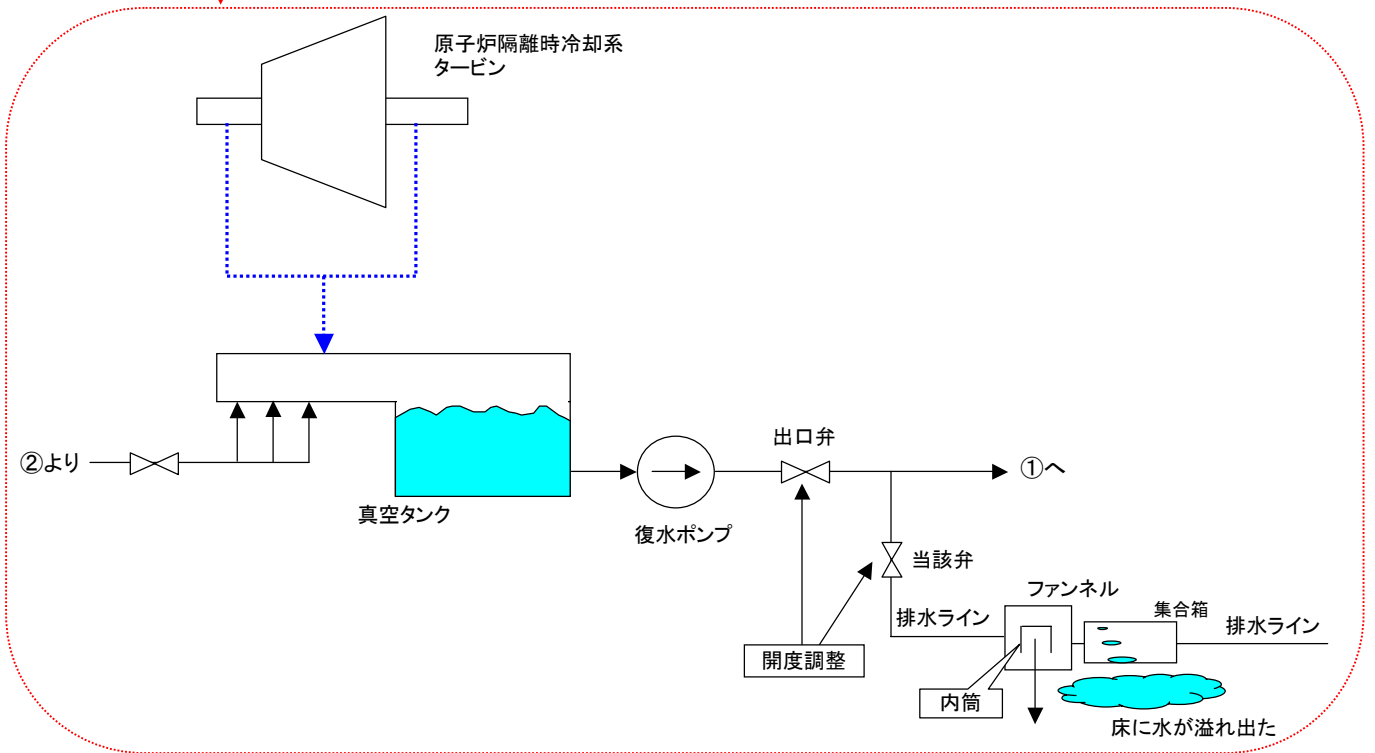
以 上

*：原子炉隔離時冷却系

原子炉の蒸気を駆動源にしてポンプを回し、原子炉の水位確保および炉心の冷却を行う系統。なお、本系統は非常用炉心冷却系ではない。



原子炉隔離時冷却系 系統概略図



原子炉隔離時冷却系 漏えい箇所概略図